

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 23 日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009 ～ 2011

課題番号：21720086

研究課題名（和文） 現代アイルランド詩および演劇における西洋古典文学の役割

研究課題名（英文） The Influence of Classical Literature on Contemporary Irish Poetry and Drama

研究代表者

TWIDDY IAIN（トウイディ イアン）

北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・特任准教授

研究者番号：10513848

研究成果の概要（和文）：

当初の研究計画はアイルランドの現代詩および現代劇における古典文学の影響を究明することであった。但し、アイルランドとイギリスの現代詩は互いに影響を及ぼして活性化しているところがあるので、両者における古典文学の影響に焦点を当てるのがより生産的なものになると思われた。この研究成果は3点あり、ひとつは国際会議で数多く口頭発表したこと、さらに査読付き学術誌に論文が掲載されたこと、くわえて研究書を出版できたことである。

研究成果の概要（英文）：

My original research plan was to study the influence of Classical literature on contemporary Irish poetry and drama. Due to the significant amount of Classical material that Irish poets and dramatists had translated and adapted, I believed this would be a rewarding area of investigation which would expand critical understanding of both contemporary Irish and Classical works. As a result of research trips to universities in England, Northern Ireland and Japan in the first year of the project, I revised the aims and scope of the project, because it became clear that the drama aspect of the project had already been substantially covered by other researchers; it seemed a more productive aim to focus on the influence of Classical material on contemporary Irish and British poetry, since the two are frequently cross-fertilising. I made presentations at international conferences in Finland, Sweden, Japan, New Zealand, the UK and the USA, and published articles in leading peer-reviewed journals. The major outcome of the research, a monograph entitled *Pastoral Elegy in Contemporary British and Irish Poetry*, was published in the UK in March 2012; it is due to be published in the USA in May 2012.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：Contemporary Irish and British poetry

科研費の分科・細目：Literature

キーワード：Classical, Irish, British, poetry, Reception, elegy

1. 研究開始当初の背景

アイルランドおよび英国の様々な作家が—たとえば、Seamus Heaney、Derek Mahon、Michael Longley、Ciaran Carson、Paul Muldoon、John Montague、Tom Paulin、Ted Hughes、Christopher Reid などがいる—古代ギリシャ・ラテンの文学的な素材を翻訳したり、翻案したりした詩や劇を發表している。その量たるや歴大なものなので、アイルランドおよび英国文学研究においても重要な研究テーマであると考えた。本研究は著書や学術論文の公刊および学会発表を目標とし、それによってこの分野の先行研究を補完しようというものであった。これまで出版された研究書としては、W. B. Stanford の *Ireland and the Classical Tradition* (1976) がある。本書はアイルランド作家の作品における古典文学のテーマを一部論じてはいるが、現代文学作品は取り扱っていない。また、Robert DeMaria と Robert D. Brown の共著 *Classical Literature and its Reception* (2007) はこのテーマを年代的に概観して最後に Seamus Heaney の作品を取り上げている。私の考察の対象は Seamus Heaney 以後であり、Seamus Heaney は本研究では最年長の作家である。このようにアイルランドおよび英国文学研究と古典文学の関係分析やその理解には埋めるべき空白があり、それを埋めようとするのが本研究プロジェクトであった。

2. 研究の目的

本研究の主たる目的は著書や学術論文の公刊、および国内外における学会発表の題材を産み出すことであった。

本研究の大枠は、過去 35 年間におけるアイルランドおよび英国の詩人による古典文学関連の詩作品を歴史的に概観、調査することであった。つまり、この間におけるこれら作家たちの歴史というものに対するさまざまな反応を跡付けることであった。さらに、作家たちは自分たちが生きる社会を理解するために、また、きわめて複雑な様相を呈する時代をどのように診断するか、その重要な記録を残すために、繰り返し古典文学に立ち戻ったわけだけだが、一体それはなぜなのか、本研究はその理由を解明しようとするものであった。

作品中に古典文学素材を盛り込んでいるアイルランドおよび英国の詩人を網羅的に研究し、一見何ら共通点を持たないように思

われる作品中に現れる要素を抽出するのが本研究のねらいであった。そうした調査は、当該作品の重要かつ精密な読みを提供するとともに、この研究領域における他の研究者にとって詳細な情報源たろうというものであった。言い換えれば、この調査は作品を批評する上で、また理論的に考察する上で有益なコンテクストを提供することによって、このテーマの研究を促進し、現代詩研究に新しい息吹を吹き込もうとするものであった。

本研究は現在ポストコロニアル研究分野でなされている広範な研究に寄与することもねらった。当該作家たちは古典文学作品を翻案、翻訳しながら政治的、社会的、倫理的な数々の問題に関わっている。かれらは帝国主義とポスト帝国主義の状況に類似点を見出しており、翻案の倫理的な意味合いについて重大な問い掛けをしている。本研究は現代文学のポストコロニアル研究における議論に一石を投じることを目指した。

3. 研究の方法

研究 1 年目には良好な研究環境を整えることにして、研究初期段階に必要な主要文献や二次文献を集めるとともにそれを精力的に読み込んだ。英国、特にシェフィールドとベルファストに調査研究に赴き、研究資料の収集に当たるとともに、諸大学の図書館を利用し、当地の現代詩研究者と本研究計画について話し合った。日本でも東北大学を訪問し、図書館を活用して古典文学に関する資料を集めたほか、当大学の研究者と面談した。

これら研究者と面談した後、研究開始から 1 年後であるが、本研究の目標と範囲を修正し、詩の側面を拡大して英国詩人の作品を大量に研究対象に含めることにするとともに、劇については他の研究者がすでに論じ尽くしているところがあるのでこの側面は削ることにした。こうすることにしたのは、時間の制約を考慮に入れて、批評としてまとまりのある著書を公刊するためであった。

2 年目にはヨーロッパを調査して回り、各地の図書館を訪ね、研究者と議論できた。また、フィンランドや、イングランド、アメリカ合衆国、ニュージーランドの国際学会で口頭発表し、この分野で活躍中の研究者から情報を収集したほか、口頭発表に関する意見や感想を聴取し、これが後に学術雑誌の投稿原稿になった。1、2 年目を通じて私は学術雑誌に論文を投稿し、有益な講評を得た。

3 年目には同じくフィンランドやスウェー

デン、日本、ニュージーランド、連合王国、アメリカ合衆国等の国際会議で口頭発表するとともに、現代詩人が古典文学にどのような姿勢を示しているかに関する論文を日本および海外のさまざまな査読付き学術誌に発表した。

4. 研究成果

研究計画ではアイルランドおよび英国の現代文学に古典文学が依然として影響を及ぼしていることを実証し、それを説明するのがねらいであった。途中でアイルランドの詩と劇からアイルランドおよび英国における詩へ研究の観点を変更したおかげで、まとまりのある、テーマ的にしっかりした著書を書き上げることができたと思う。アイルランドおよび英国の詩に及んでいる古典文学の影響は多様であると同時にダイナミックであり、批評分析上、とりわけ詩学や倫理学、さらには戦争と平和の研究に関して、刺激的な問題点を提供し続けている。本研究の成果である査読付き学術論文や著書は、現代文学研究および古典文学の受容研究の貴重な貢献をもたらした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① ‘Contemporary Male Elegy’, *English Studies*, vol. 92, no. 6 (October 2011), pp. 662-78.
- ② ‘Making Hay: Paul Muldoon and Pastoral’, *Irish Studies Review*, vol. 19, no. 3 (Autumn 2011), pp. 307-20.
- ③ ‘Exile and Belonging in Douglas Dunn’s Political Poetry’, *Media and Communication Studies*, vol. 59 (Winter 2010), pp. 103-21.
- ④ ‘Myth and Public Mourning: Ted Hughes’s *Birthdays Letters*’, *Symbiosis*, vol. 14, no. 1 (April 2010), pp. 63-80.
- ⑤ ‘Community Poems: Ted Hughes and the Eclogue’, *English*, vol. 58, no. 222 (Autumn 2009), pp. 243-63.
- ⑥ ‘Douglas Dunn’s *Elegies*: The Ethics and Impossibility of Mourning’, *Scottish Literary Review*, vol. 1, no. 1 (Spring / Summer 2009), pp. 125-41.

[学会発表] (計9件)

- ① ‘Aspects of Mourning in Contemporary

Irish Poetry’, ‘Psychoanalysis and Politics’, Swedish Psychoanalytical Association, Stockholm (March 2012).

② ‘Myth and Healing in Recent Irish Elegies’, Hawaii International Conference on Arts and Humanities (January 2012).

③ ‘Healing and Ethics in Recent Irish Poetry’, IASIL Japan conference 2011, Doshisha University (October 2011).

④ ‘Terrorism and Censorship in Paul Muldoon’s *Horse Latitudes*’, *Conversify: Poetry, Politics and Form*, University of Edinburgh (September 2011).

⑤ ‘Snark Hunting in Paul Muldoon’s *Horse Latitudes*’, *Transmission: Helsinki Poetics Conference*, University of Helsinki (August 2011).

⑥ ‘Myth in Contemporary Elegy’, Australasian Universities Language and Literature Association, University of Auckland (February 2011).

⑦ ‘Classical Motifs in Contemporary Cancer Elegies’, Hawaii International Conference on Arts and Humanities (January 2011).

⑧ ‘Classical Myth in Contemporary Elegy’, *Myth, Literature and the Unconscious*, University of Essex (September 2010).

⑨ ‘Representation and Ethics in Contemporary Elegy’, *Mimesis, Ethics and Style*, University of Helsinki (August 2010).

[図書] (計1件)

Pastoral Elegy in Contemporary British and Irish Poetry (London: Continuum, March 2012).

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

Twiddy Iain (トウイディ イアン)
北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・特任准教授

研究者番号：10513848

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：